7 Rd.
OCT 2011
平成23年11月20日発行
第2巻28号

Japan RACING PRESS

2011 AUTOBACS SUPER GT ROUND7 IN KYUSHU 250Km RACE

2011 SUPER GT

Round 7 AUTOPOLIS 10/1-2

Text
島村元子

Photo
鉄谷康博
加藤智充

Editor
吉川絹恵
中村佳史
近江　勤

GT500

いよいよセミファイナル戦を迎えたSUPER GT。第7戦の舞台は大分・オートポリス。2年ぶりのGTレース開催に九州のレースファンが熱烈歓迎。また2日ともレース日和の好天気に恵まれた。決勝では、予選で後方に沈んでいたNo.23 MOTUL AUTECH GT-R(本山哲/ブノワ・トレルイエ組)が猛烈な追い上げを見せ、首位に立つとその後もゆるぎない走りで勝利した。

MOTUL AUTECH GT-R、怒涛の追い上げで劇的勝利!今季V2を達成!

決勝で23号車のスタートを担当したのは本山。路面と選択したタイヤの相性が悪く、タイムが上がらないライバルを尻目に、目の覚める攻めの走りに徹し、次々とライバルを逆転する。さらにレースを有利に進めていたポールポジションスタートのNo.39 DENSO SARD SC430（石浦宏明/井口卓人組）やNo.46 S Road MOLA GT-R（柳田真孝/R・クインタレッリ組）の好調・ミシュラン勢をも抜き去り、トップへと上り詰めた。驚愕の逆転勝利を果たした23号車は、ポイントランキングでも2位へと浮上。最終戦を前にタイトル獲得の可能性があるのは2台に絞られ、46号車と23号車のGT-R同士が一騎打ちでチャンピオンを争うことになった。

2nd

3rd

[GT500 決勝結果]

優勝	23	MOTUL AUTECH GT-R	本山　哲/ブノワ・トレルイエ
2位	46	S Road MOLA GT-R	柳田真孝/ロニー・クインタレッリ
3位	38	ZENT CERUMO SC430	立川祐路/平手晃平
4位	36	PETRONAS TOM'S SC430	アンドレ・ロッテラー/中嶋一貴
5位	24	ADVAN KONDO GT-R	安田裕信/ビヨン・ビルドハイム
6位	17	KEIHIN HSV-010	金石年弘/塚越広大

LEGACY B4がポールツゥーウィンで2勝目！

GT300は、ポールからNo.62 R&D SPORT LEGACY B4(山野哲也/佐々木孝太組)が盤石のレース運びで勝利。今季2勝目を挙げた。一方、ランキング2位のNo.11 JIMGAINER DIXCEL DUNLOP 458(田中哲也/平中克幸組)が決勝で2位を獲得。最終戦で、No.4初音ミク グッドスマイル BMW(谷口信輝/番場琢組)とタイトルを巡るガチンコ勝負に挑むことになる。

[GT300 決勝結果]

優勝	62	R&D SPORT LEGACY B4 山野哲也/佐々木孝太
2位	11	JIMGAINER DIXCEL DUNLOP 458 田中哲也/平中克幸
3位	14	SG CHANGI IS350 折目　遼/A・インペラトーリ
4位	2	エヴァンゲリオンRT初号機アップル紫電 高橋一穂/加藤寛規
5位	25	ZENT Porsche RSR 都筑晶裕/土屋武士
6位	88	JLOCランボルギーニ RG-3 居入宏之/関口雄飛

THE FACE

CLOSE-UP

Loïc DUVAL
ロイック・デュバル

Text by M.Shimamura

Photo:Y.Tetsutani

クールな笑顔に見え隠れする熱い思い SUPER GTではHonda勢を牽引

歴史的建造物の大聖堂で有名なフランス・シャルトルで育った少年は10歳でカートを始め、順調にステップアップを果たしてきた。後にユーロF3へと参戦。だが、2006年に転機を迎える。日本でも馴染みある元F1パイロットのエリック・コマスのマネージメント会社が彼を抜擢、NAKAJIMA RACINGからフォーミュラ・ニッポンおよびSUPER GTへの参戦を果たしたのだ。

当時まだ24歳。クールな印象が強く、意思の疎通をうまく図るための努力はするものの、どうしても言葉のカベに悩むことが多かった。しかしデビューイヤーながらフォーミュラ・ニッポンでは2勝し、SUPER GTでも1勝をあげるなど、ルーキーならではの勢いを存分に発揮。存在感をしかとアピールすることに成功する。

その後、フォーミュラ・ニッポンにおいては、2009年にライバルを圧倒する速さで4勝をマーク。念願のシリーズチャンピオンを獲得するだけでなく、チームタイトル奪還にも貢献した。だがこのあと彼はチームでの“安泰”を望まず、次のステップを目指して食指が動く。フォーミュラでは王者になったが、一方のSUPER GTは毎年パートナーが替わり、結果を手にすることが困難な状況にあったことがその背景にあった。結果、NAKAJIMA RACINGとの4年に渡る蜜月に終止符を打つことになるのである。

デュバルの次なる野望は、SUPER GTでのタイトルを手にすること。折りしもHondaはNSXからHSV-010 GTというニューマシンでの参戦を開始。こうして彼は満を持してワークスチームである童夢から参戦を実現させた。パートナーはかつて同じチームで凌ぎを削りあった小暮卓史。ここに最強・最速コンビが誕生し、見事HSVデビューイヤーにシリーズタイトルを獲得してみせたのである。

近年は世界的に有名な耐久ル・マンシリーズの耐久レースにも積極的に参戦。最高峰ル・マン24時間レースでの活躍も注目が集まる。一方で今シーズンから日本でのレース活動はSUPER GTの1本に絞られてしまったが、冷静沈着かつスマートな走りは、まだまだ日本のレースファンを魅了し続けてくれることだろう。

[ドライバープロフィール]

1982年6月12日、フランス・シャルトル出身。10歳でカートを始め、フランス国内に留まらず、世界選手権でも華々しい活躍を重ねた。フォーミュラレースへのステップアップは2002年。母国で主流だったフォーミュラ・ルノーでチャンピオンを獲得し、ユーロF3への参戦を果たす。日本への来日は2006年。ニューカマーながら、フォーミュラ・ニッポンおよびSUPER GTにダブルエントリー。デビューイヤーに両カテゴリーで優勝するチャンスに恵まれた。シリーズタイトルは2009年にフォーミュラ・ニッポン、2010年にSUPER GTにて獲得。今季はSUPER GTに参戦中。